

復興を歩む

vol.18

繁殖牛の飼養実証

村内で、繁殖牛の飼養実証が始まりました。

9月6日、実証協力者である山田長清さん(伊丹沢)の牛舎に、本宮市の福島県家畜市場で購入した2頭の子牛が到着。春から牛舎の修繕や清掃を続けてきた山田さんは、元気に歩き回る子牛に目を細めました。

この事業は、福島県営農再開支援事業(特認事業)によるもので、村が事業主体となり、山田さんの協力を得て行うものです。飼養は、牛舎とパドック内で行われ、エサや敷きワラなどは、村外産を使用します。また、飼養実証中に雌牛から生産された子牛(月齢12か月未満)は、出荷制限等の対象外であり、検査等で安全性を確認した上で、家畜市場に出荷する予定。今回の飼養実証は、来年4月から「畜産再開」を目指して、2月末まで実施します。

山田さんは、同じ9月の16日、全村避難に伴い猪苗代町の県畜産研究所に預けていた親牛4頭も、5年3か月ぶりに村内の畜舎に移しました。親

牛から生まれた9頭の子牛も一緒に。牛舎には、畜産仲間たちが、避難先から応援に駆けつけました。

「この日を待っていた。目標ができてうれしい」と山田さん。現在村内に獣医がないこと、稲作や牧草栽培が再開できず村外産を使わざるを得ないことなど、避難前とは違った環境下ですが、「繁殖できる牛を育てる。一から勉強だ」と意欲を燃やします。分娩期を予測するための牛温計のデータや監視カメラの映像をスマートフォンで確認できるシステムも導入。避難先と行き来する現状に対応します。

また、松塚地区では、県畜産研究所が事業主体となつて、山田猛史さん(関根・松塚)の協力のもと、水田放牧の実証が行われます。整地した水田2haに9月末、牧草の播種を行いました。来年には親牛数頭を放牧し、平成30年度までを実証期間として事業を進めます。耕作しない水田の活用と、放牧再開に向けた挑戦です。

現段階で村内再開を予定している畜産農家は6件。村は、実証事業を進めながら、希望者の畜産再開支援のための事業展開を計画中です。再開を検討されている方は、村復興対策課農政係 ☎0244(42)1621までご連絡ください。



9月6日、家畜市場のせりで購入した2頭の子牛を牛舎に運び、世話をする山田長清さん夫妻。妻の利江さんは、「お父さんは毎日のように通って掃除や準備をしていました。水を得た魚のようにいきいきとね。目標のない人生ではシャキッとしないんですよ」と笑いました。「避難先での生活もありますが、避難指示が解除になったら、母と一緒に私も帰って来たいと思っています」。